

知っていますか？「新しい認知症

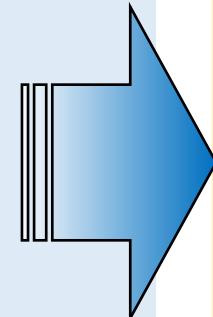
認知症になってからも、一人一人が個人として、できること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、自分らしく・いきいきと暮らし続けることができます。

私たち一人一人が「新しい認知症観」に立ち、認知症への正しい理解を深めていくことが大切です。

古い認知症観

(他人ごと、問題重視、疎外、他者視点)

- 他人ごと、なりたくない、目をそらす、先送り
- 認知症だと何もわからない、できなくなる
- 本人は話せない／声を聞かない
- おかしな言動で周りが困る
- 危険重視、過剰制限しても仕方ない
- 周囲が決める
- 本人は支援される一方、負担の存在
- 地域で暮らすのは無理
- 認知症は恥ずかしい、隠す
- 暗い、萎縮、あきらめ、絶望的



新しい認知症観

(わがごと、本人視点、可能性重視、ともに、希望)

- わがこと、お互いさま、向き合う、備える
- わかること、できることが豊富にある
- 本人は声を出せる／声を聞く
- 本人が一番困っている。本人なりの意味がある。
- あたりまえのこと（人権）重視。自由と安全のバランス
- 本人が決める（決められるように支援）
- 本人は支え手でもある。経験者として大切な存在
- 地域の一員としてともに暮らす *施設入所後も
- 認知症でも自分は自分、自然体でオープンに
- 楽しい、のびのび、あきらめず、希望がある